

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	オタマじゃくし		
○保護者評価実施期間	2025年 1月6日		～ 2024年 2月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2025年 1月 6日		～ 2025年 2月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	弊社はスタッフが一人一人の利用児童、利用児童家庭と向き合い、真摯に対応することで本人にとってかけがえのない居場所を提供している。	本人との信頼関係形成を目指し、共に遊んだり、相手に関心を向け続けたりする関りを日課としています。	スタッフの人員配置をなるべくマンツーマンに近い環境を準備する事で、より一人一人に向き合った深い関係性を目指し、こどもの最善を意識した対応を行います。
2	利用児童の最善の為に、各スタッフそれぞれが向き合い、スタッフ同士でも密な連携を行い、こどもの気持ちを意識している。	毎朝、児童が来所前にスタッフ同士で児童の様子について話し合い、今日来る子が楽しく過ごせるようにと考えた上で受け入れを行っている。	児童の好みをなるべく早く理解できるように、遊びや送迎時間等を通じて、複数人のスタッフが代わる代わる一人の児童に関わるように意識していきたい。
3	児童の関係性や精神状態、障害特性などを踏まえた環境の提供。	児童の関係性や精神状態、障害特性などを踏まえた環境整備を提供する為、パーテーション等を利用し、定期的な席替えや模様替えを検討した上、スペース確保を努めている。	模様替えの時に児童を巻き込み、一緒に相談したり、一緒に席替えの荷物を運んだりする日を設けて、本人の心機一転に役立てるようにしてみたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	閉鎖的である	・内部に集中している所が多い。 ・児童の遊びの需要が室内に向いていて、外へのモチベーションがどうしても低い。	外活動を行う時になるべく子供の関心を引き、まずは外に連れ出して、外で遊ぶという経験を春休みや冬休み等の時間帯でイベントを通じて行っていきたい。
2	全体周知に時間がかかる	・週に一度や数か月に一度の利用しかしない子等、保護者や本人に直接伝える機会が限られるケースがあるから。	限られるケースの中で伝えることが出来るように、電話連絡等を活用して、定期的に本人の様子を保護者と話し合えるような関係性を維持する。
3	子供同士の遊びが少ない	・利用児童によっては好きな遊びをしている仲間が少なく、子供同士で遊ぶ事がうまく出来ないこともある。	料理プログラムや外活動のレクリエーション活動等で、仲良く慣れそうな性格同士の児童を同じ班にしたり、席替えで近くにつれて行く等をして、少しでも児童同士の会話に繋がるように支援したい。